

問題 三3(3)

登場人物の心情の把握
通過率27.5%

平成21年度からの調査では、登場人物の心情を捉える力の定着が不十分である。

また、これまでの誤答の状況を見ると、場面の展開や登場人物の言動等に注意して読むことや、心情が表れている叙述を基に自分の考えをまとめることができていない。

<経年比較>

年度	通過率(%)
平成 23 年度	27.5
平成 22 年度	51.4
平成 21 年度	44.0

(3) 〇には、『ぼく』の気持ちが入ります。あとの文に続くように、十五字以内で書きなさい。

次の文章をよみ、この文章を読んだ二人の生徒の会話が書かれています。あとの(1)～(3)の問いに答えなさい。

川端裕人 「今ここにいるぼくらは」による。
※ 資料編 参照

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

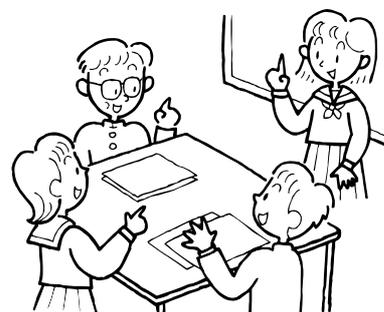
主な誤答と無解答	割合(%)
1 「不安」はあるが 具体がない	23.4
2 前の内容のみ	5.1
3 無解答	17.3

誤答 1

場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、心情を理解する力が不十分である。【23.4%】

➡ 読み取ったことを個人でまとめさせていますか？

○ 心情の変化を捉えさせる場面では、まず、登場人物の心情が表れている叙述を手掛かりに、自分の考えを書かせましょう。その後、根拠となる叙述に基づいて話し合わせた後で、もう一度自分の考えをまとめさせましょう。



文脈上の語句の理解 通過率41.3%

これまでの調査では、ほぼ80～90%の通過率であった。そこで、今年度は、「時間経過を表す副詞」に変えて出題したところ、通過率が下がった。

直前、直後の文脈からは読み取ることができるが、文章全体の文脈から「時間経過」を読み取ることができていない。

<経年比較>

年度	内容	通過率(%)
平成 23 年度	時間経過を表す副詞	41.3
平成 22 年度	擬態語の用法	93.3
平成 21 年度	多義語の意味	96.2
平成 20 年度	多義語の意味	88.2
平成 19 年度	辞書的な意味と文脈上の意味	61.7
平成 18 年度	辞書的な意味と文脈上の意味	92.1

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

川端裕人 「今ここにいるぼくらは」による。
※ 資料編 参照

きのうの同じ時間、ぼくは（ ） 遠い土地にいた。

文章中の（ ）にあてはまる最も適切な語を、次の

ア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア しばらく イ まだ ウ やつと エ さらに

主な誤答と無解答	割合(%)
ア	33.6
エ	20.9
ウ	3.2
無解答	0.6

誤答ア・エ

直前や直後の文だけを読み、当てはまりそうな語句を選んでいる。
【54.5%】

➡ 文章全体を読ませていますか？

○ 文学的な文章を読む場合に、機械的に場面を区切って、場面ごとに教師の発問に答えていく授業だけでなく、文章全体を生徒が目的をもって主体的に読む工夫をしましょう。

例えば、「物語を読んで、自分が選んだ場面の朗読をする。」「登場人物のその後の生き方を考える。」といった単元を貫く言語活動を設定し、文章全体を読んだり、必要に応じて細部を読んだりさせましょう。

※ 単元を貫く言語活動について

国語科における言語活動は、「ここで音読する」「ここで話し合う」といったばらばらの活動だけで成立するものではありません。単元で身に付けさせる指導事項を確実に定着させるために、言語活動を行う過程が、子どもにとって課題解決の過程となるように、単元を通して一貫した言語活動を位置付けることが必要です。



文章の展開の把握 通過率42.5%

平成19～22年度の調査では、筆者がどのように文章全体の論を展開しているかを問う問題を出題した。

平成19年度には、46.6%だった通過率が、平成22年度には、73.8%に上昇した。

そこで、今年度は、問い方を変え、特定の段落が文章の中でもつ役割を問う問題を出題した。通過率は60%を下回り、的確に役割を捉える力の定着が不十分である。

<経年比較>

年度	通過率(%)
平成23年度	42.5
平成22年度	73.8
平成21年度	56.5
平成20年度	69.0
平成19年度	46.6

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

田中 修 「都会の花と木」による。

※資料編 参照

七段落は、文章の中でどのような役割をもっていますか。次のア～エの中から最も適切なものを選び、その記号を書きなさい。

- ア それまでの内容を否定し、その理由を説明
- イ それまでの内容を受けて、新たな話題を提示
- ウ それまでの内容について、例をあげて説明
- エ それまでの内容をまとめ、要点を示して提案

主な誤答と無解答	割合(%)
ウ	26.3
エ	15.3
ア	14.2
無解答	1.5

誤答ウ・エ・ア

段落相互の関係を正しく押さえることができていない。
文章の大きなまとまりごとの役割を理解できていない。
【55.8%】

➡ 穴埋め式の文章構成図で指導していませんか？



- 枠組みや矢印等を全て教師が書いてしまい、生徒がキーワードを入れるだけの文章構成図を用いる学習では、生徒は中心的部分を読み分けたり、段落相互の関係を捉えたりする必要がなくなります。生徒自身に「この段落は、文章の中心的部分だから太く囲む。」「ここは実験に対する結果だから矢印でつなぐ。」等を意識させながら、文章構成図を作成させましょう。

➡ 文章構成について小学校で学んだことを生かしていますか？

- 小学校第3・4学年では、「段落相互の関係」に注意しながら文章を書いたり読んだりすること、第5・6学年では、自分の考えを明確に表現するために、文章全体の構成の効果を考えて書くことや、文や文章にはいろいろな構成があること等を学んでいます。中学校では、これらの既習事項を想起させたり確認したりしながら、文章構成について指導しましょう。